

第1回3月定例会は、3日から21日までの19日間開かれ、令和7年度の当初予算など審議の結果、追加議案を含め、提案された議案27件を原案のとおり可決しました。また、諮問1件を可決しました。

予算書の閲覧はこちらから
須恵町
ホームページ



議会の視点

① 一般会計は過去最高額を更新

当初予算の額は、見出しの通りです。主要因は、町税、地方交付税、国庫支出金の大幅増です。最高額に喜んでばかりもいません。国の事業の拡大により、一部負担する扶助費が増額しています。18.2%の増で構成比も4分の1を超えました。必要な支出ではありますが、町の自由度が低くなり、歳出が圧迫される一面もあります。

町税の増額は3億3千万円。経済の好調を表している一方、歳出で弱者対策が手厚くなっていることを併せて考えると、社会の格差が広がっているとも言えます。

② 物価高騰対策にも注力

主な内容は、記事にある通りですが、昨今の物価高騰に対しては、歳入の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金が、2億3,500万円と昨年から倍増しており、必要な事業の予算に割り振られます。昨年の定額減税の続きで、定額減税補正給付金事業に1億7,800万円を計上しています。

③ 予算審査は活発な議論を

議会改革の一環で、執行部に対し予算審査の説明を様式化した資料を要求しました。議員の発する予算委員会での質疑は、まだ一層の努力を要する面もありましたが、少しずつ改革の前進を感じる審査となりました。議会報告会の成果なども生かしつつ、議員力を向上させ、より深い議論をしてまいりたいものです。

令和7年度 当初予算 136 億9000万円

一般会計
前年度比 6.1% 増

財政調整基金繰入金
(貯金の取り崩し) 7億8845万円
町債(借金) 5億5470万円

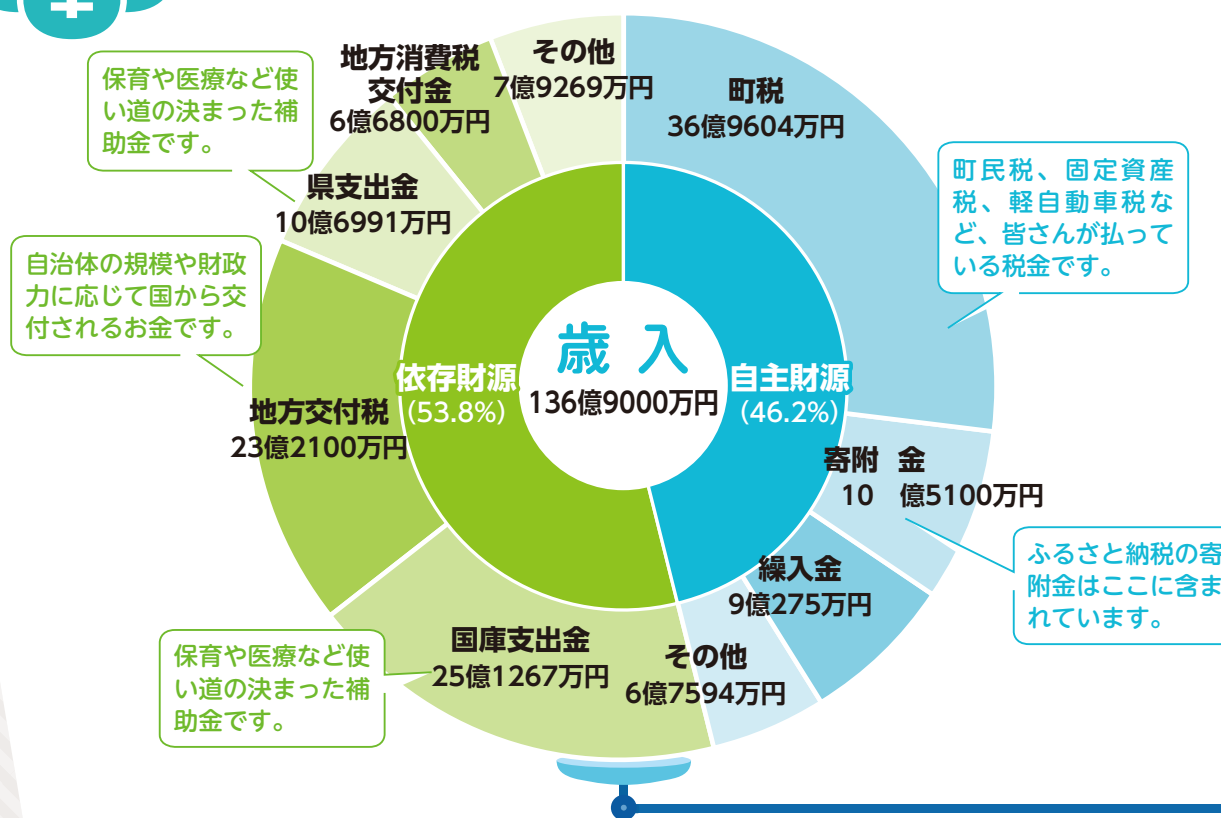
※令和7年度議員注目の事業は、6～7ページで紹介しています。

令和7年度一般会計当初予算は136億9000万円で、前年度に比べ7億9000万円の増額(6.1%増)で、過去最高の予算規模となっています。



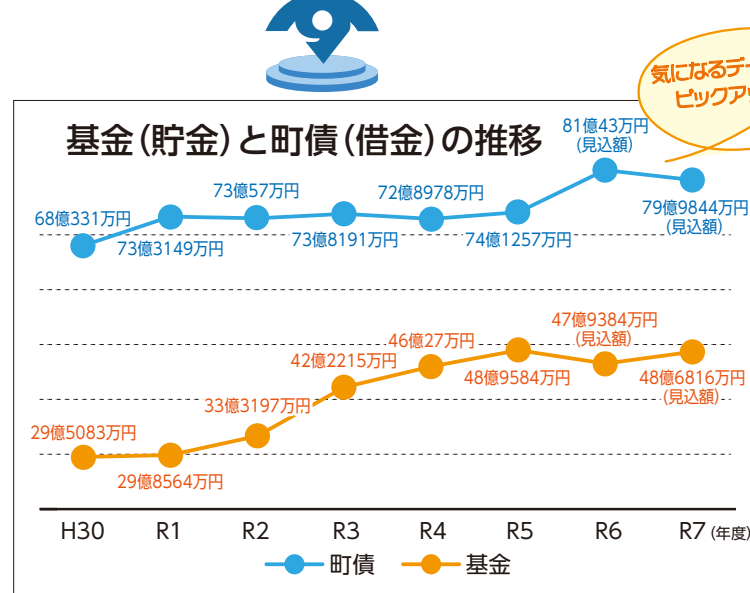
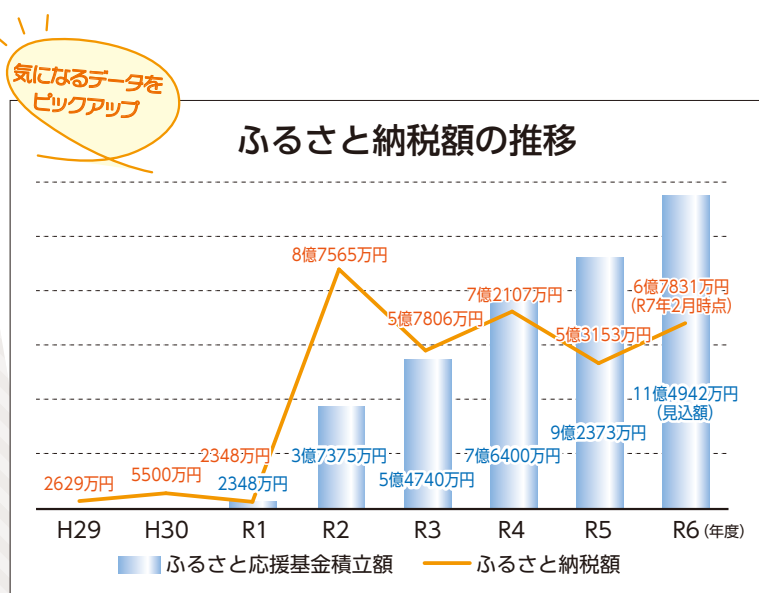
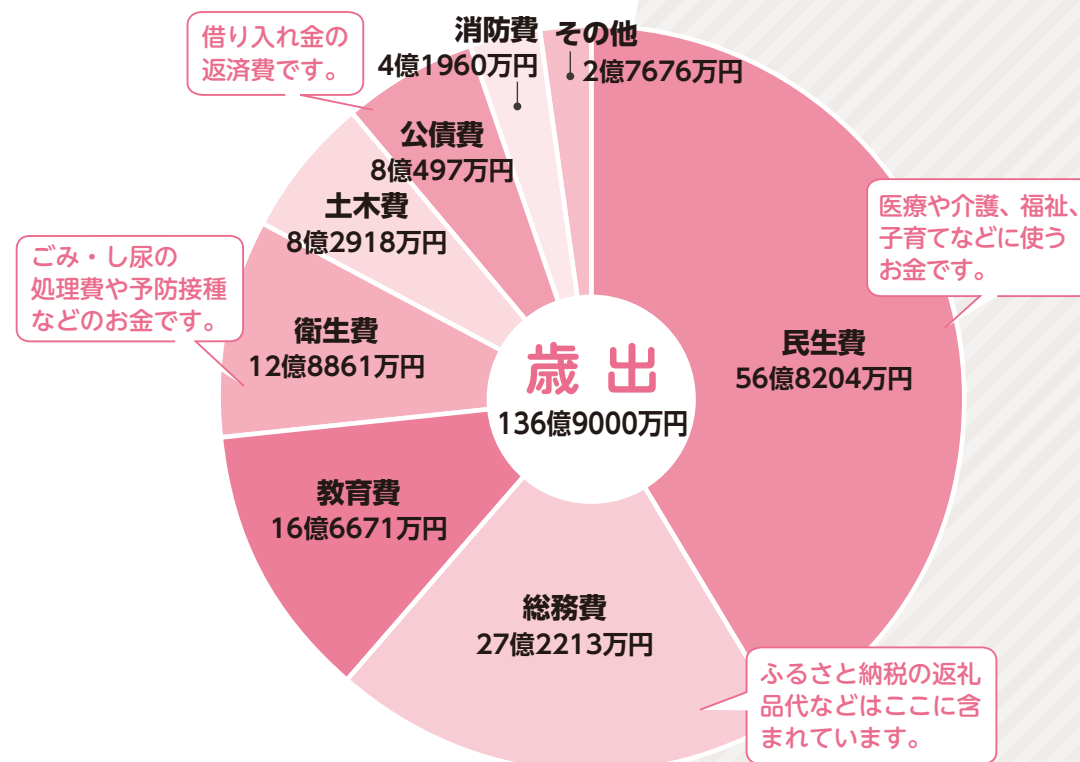
歳入

町税は、前年度比9.8%増の36億9604万円の収入を見込んでいます。また、見込んでいます。しかし、エネルギーおよび物価高騰対策などで国からの交付金が増えたこともあり、自主財源が1.3ポイント減少しています。



歳出

教育費は、校舎増改築、体育館空調整備工事請負費などで20%の増加となり、民生費は、障がい者支援費・自立支援給付費、保育所等整備事業費補助金、児童手当などで15.9%増加しています。衛生費は、定期予防接種業務委託料の減などで1.3%の減額となっています。



予算審査特別委員会
稲永副委員長コメント

(ふるさと納税額の推移)
令和2年度以降、官民連携による努力や工夫を重ねてきたことにより、実績が伸びています。須恵町の取り組みや特産品の魅力が反映された結果だと思えます。今後も魅力ある須恵町を発信して頂きたいと思います。

※すべてのページにおいて、金額は1万円未満を切り捨てていますので、合計額が合わない場合があります。



予算審査特別委員会
田ノ上委員長コメント

(基金と町債の推移)
油断できない状況が見て取れます。令和2年から5年にかけて基金が増えているのはコロナ特需。それが以降は、攻防戦のように推移しています。

一方、町債は増の傾向。どうしてもしなければいけない事業が多々あり、執行部の苦悩を感じます。議会も責任を果たしてまいりたいと思います。